

## 令和元年度第1回広島県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和元年8月28日（水） 14時00分～16時30分
- 2 場 所 広島市中区基町10-52 県庁本館6階601会議室
- 3 議 案 第1号議案：平成30年度県営林年度実施計画の達成状況について  
第1号議案について審議の結果，平成30年度県営林年度実施計画の達成状況については，諮問のとおり承認された。

### 4 委員からの主な質問・意見（○質問 ●回答 ◎意見）

#### （1）平成30年度県営林年度実施計画の達成状況について

- ◎ 平成30年度事業の達成状況について，全体として色々な面で改善していると思う。
- 直接協定取引で，製材工場と集出荷施設を考えたとき，販売単価はそれぞれどのような形で決まるのか。
- 製材工場と直接協定取引をする場合は，中間土場で仕分けを行い，直材，小曲材は製材工場等に，曲材はLVL工場に販売することが多い。  
集出荷施設へは，基本的には選別（仕分け）を行っていないため，曲材を含めた販売単価となっている。  
また，運賃を負担する集出荷施設もあり，販売単価が低くても，運搬コスト等を補正すると，他と互角の金額で取引されている場合もある。
- 生産性（10.2 m<sup>3</sup>/人・日）が飛躍的に伸びた理由は何か。
- 事業の早期発注に取り組んだ結果，積雪期の施業が少なくなったことなどから作業が効率化され，生産性が上がったと考えている。また，全体的に業者のレベルがアップしてきたと考えている。
- ◎ 生産性の調査にあたっては，径級や樹高も考慮して分析することを検討していただきたい。
- 平成30年度の立木販売単価（約190万円/ha）は，平成29年度（約150万円/ha）と比較して高いが，背景が分かれば教えていただきたい。
- 平成30年度は約190万円/haと高い金額で販売しているが，今年度に西部地域でバイオマス発電所の建設が見込まれていたことや，西部地域での入札が多かったことから，競争が働いたと考えている。
- 素材生産量が計画を下回ったのに，経常利益を確保できた理由は何か。
- 素材生産量の減少割合に比べて，売上の減少を抑えたことが大きいと考える。また，

昨年度は相場が若干良かったことに加え、業務の委託先が販売努力をした影響も多分にある。

(2) その他(第2期県営林中期管理計画の対応状況)

- ◎ ドローンやレーザ技術の活用など全体的に前向きな取組で大変良いと思う。
  
- 分収割合の変更同意など契約者との交渉について今後の見通しはどうか。
- 旧センター林の方は、県移管同意を得る時に、土地所有者全員と確認を取っている。一方で、既存県営林は、かなりの期間、土地所有者と連絡をしていないところも多くあり、今後、施業プラン書を作って交渉するが、所有者を見つけにくくなってくるのが懸念される。
  
- 県全体として、再造林について何か対策はあるのか。
- 再造林するところは、林業経営の適地で行うこととしているが、収支の問題を含めて、所有者の再造林の対する意欲を高めていくことが一番の問題。課題の解決に向けて、検討してまいりたい。
  
- ◎ 再造林については、所有者の意志や意欲の問題もあるが、地位や路網の配置など林業活動の優位性を考慮することも重要。
  
- ◎ 国有林でも航空レーザ測量を活用した樹高分析を試しているが、広葉樹が混ざっている場合は、高さに誤差が出ることがある。場所に応じて、地上レーザとドローンを使い分ける必要がある。